

⑥刊行物に関する事業一覧

刊行物の名称	担当部門	頁
『美術研究』(美 14)	美術部	113
『日本美術年鑑』(美 10)	美術部	113
『芸能の科学』(*芸 11)	芸能部	114
『保存科学』(保 09)	保存科学部	114
『東京文化財研究所年報』(*情 03)	情報調整室	115
近代の文化遺産の保存修復に関する報告書『未来につながる人類の技 4 鉄道の保存と修復 II』(*修 01)	修復技術部	115
近代の文化遺産の保存修復に関する報告書『Conservation of Railway I』(*修 01)	修復技術部	115
第 27 回文化財の保存・修復に関する国際研究集会報告書『The 27th International Symposium on Conservation and Restoration of Cultural Property—The Role of Urushi in International Exchange—』(修 15)	修復技術部	116
第 12 回アジア文化財保存セミナー「文化遺産の将来像と保護制度」報告書『Proceedings of the 12th Seminar on the Conservation of Asian Cultural Heritage』(セ 32)	国際文化財保存修復協力センター	117
国際文化財保存修復研究会報告書 (セ 12)	国際文化財保存修復協力センター	118
『民俗芸能研究協議会報告書』(*芸 11)	芸能部	119
在外日本古美術品保存修復協力事業報告書 『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成 16 年度 (絵画/工芸品)』(*修 05)	修復技術部	119
蔵書目録『東京文化財研究所蔵書目録 4 日本東洋古美術関係 欧文編』『東京文化財研究所蔵書目録 5 (上) 和雑誌 目録編』『東京文化財研究所蔵書目録 5 (下) 和雑誌 索引編』(情 05)	協力調整官—情報調整室	120
画像形成技術の開発に関する研究報告書『国宝 紅白梅図屏風』(*情 01)	情報調整室	120
『日本東洋古美術文献目録 一九六六～二〇〇〇年 定期刊行物所載』(*美 04)	美術部	121
『大正期美術展覧会の研究』(*美 05)	美術部	121
第 33 回文化財保存修復研究協議会報告書『古墳や洞窟内の水分の影響と保存対策』(保 19)	保存科学部	122
国際研修「紙の保存と修復」報告書『International Course on Conservation of Japanese Paper 2004』(*修 14)	修復技術部	123
フランスにおける文化財保護制度と保存活用に関する調査研究報告書 叢書「文化財保護制度の研究」『フランスに於ける歴史的環境保全—重層的制度と複層的組織、そして現在—』(セ 29)	国際文化財保存修復協力センター	123
『青木繁《海の幸》—美術研究作品資料—第 3 冊』(*美 03)	美術部	124
『DVD 文化財生物被害防止ガイド』『文化財のカビ被害防止チャート』『文化財害虫事典 2004 年改訂版』(*保 02)	保存科学部	125
『韓日共同研究報告書 2004』(*修 03)	修復技術部	125
『伝統的修復材料に関する調査研究 III』(*修 06)	修復技術部	126
『敦煌莫高窟壁画保存修復に関する日中共同研究報告 2004』(*修 02)	修復技術部	126

『文化財の防災計画に関する研究 最勝院五重塔振動測定調査報告 』 (* 修 13)	修復技術部	126
『東文研ニュース』 (* 情 03)	協力調整官—情報調整室	127
『東京文化財研究所概要』 (* 情 03)	協力調整官—情報調整室	127

- *注 ・『芸能の科学』及び『民俗芸能研究協議会報告書』は、芸能部出版関係事業 (⑥芸 11) の一環として実施した。
- ・『東京文化財研究所年報』及び『東文研 NEWS』・『東京文化財研究所概要』は、広報企画事業 (③情 03) の一環として実施した。
 - ・近代の文化遺産の保存修復に関する報告書『未来につなぐ人類の技 4 鉄道の保存と修復 II』『Conservation of Railways』は、近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究 (①修 01) の一環として実施した。
 - ・在外日本古美術品保存修復協力事業報告書『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成 16 年度 (工芸品/絵画)』は、在外日本古美術品保存修復協力事業 (②修 05) の一環として実施した。
 - ・画像形成技術の開発に関する研究中間報告書『国宝 紅白梅図屏風』は、画像形成技術の開発に関する研究 (①情 01) の一環として実施した。
 - ・『日本東洋古美術文献目録 一九六六～二〇〇〇年 定期刊行物所載』は、東アジア地域における美術交流の研究⑤日本・東洋美術研究文献の活用に関する研究 (①美 04) の一環として実施した。
 - ・『大正期美術展覧会の研究』は、我が国の近代美術の発達に関する調査・研究①日本近代美術の発達に関する調査・研究—昭和前期を中心に (①美 05) の一環として実施した。
 - ・国際研修「紙の保存と修復」報告書『International Course on Conservation of Japanese Paper 2004』は、国際研修 紙の保存と修復 (⑤修 14) の一環として実施した。
 - ・『青木繁《海の幸》—美術研究作品資料—第 3 冊』は、東アジア地域における美術交流の研究④重要美術作品資料集成に関する研究 (①美 03) の一環として実施した。
 - ・『DVD 文化財生物被害防止ガイド』『文化財のカビ被害防止チャート』『文化財害虫事典 2004 年改訂版』は、臭化メチル燻蒸代替法に関する研究 (①保 02) の一環として実施した。
 - ・『韓日共同研究報告書 2004』は、周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究 (①修 03) の一環として実施した。
 - ・『伝統的修復材料に関する調査研究Ⅲ』は、伝統的修復材料に関する研究 (①修 06) の一環として実施した。
 - ・『敦煌莫高窟壁画保存修復に関する日中共同研究報告 2004』は、敦煌莫高窟壁画の保存修復研究—日中共同研究— (②修 02) の一環として実施した。
 - ・『文化財の防災計画に関する研究 最勝院五重塔振動測定調査報告 』は、文化財の防災計画に関する研究 (①修 13) の一環として実施した。

『美術研究』(⑥美 14-04-4/5)

1932(昭和7)年1月、東京文化財研究所の前身である美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、70年以上にわたり、日本・東洋の古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関連する西洋美術について、論文・図版解説・研究資料を掲載している。現在は年3回刊行。昨年度より新たに、研究ノート、書評、展覧会評の欄を設け、いっそうの誌面の充実をはかった。本年度は以下のとおり383号、384号、385号を刊行した。

『美術研究』383号(16年度第1冊/2004年8月刊行)

鶴田武良 日華(中日)絵画聯合展覧会について—近百年來中国絵画史研究 七一
 村上博哉 自己イメージの弁証法(上)—松本竣介《画家の像》、《立てる像》、《五人》《三人》の解説—
 鈴木廣之 研究ノート 一八七九年のW・アンダーソン「日本美術の歴史」

『美術研究』384号(16年度第2冊/2004年11月刊行)

榮新江/西林孝浩訳 ソグド祇教美術の東伝過程における転化—ソグドから中国へ—
 村上博哉 自己イメージの弁証法(下)—松本竣介《画家の像》、《立てる像》、《五人》《三人》の解説—
 塩谷純 図版解説 速水御舟《幼児像素描》
 鶴田武良 研究資料 公刊『日華(中日)絵画聯合展覧会出品目録』—近百年來中国絵画史研究 七(続)—

『美術研究』385号(16年度第3冊/2005年2月刊行)

柳澤孝 園城寺国宝金色不動明王画像(黄不動)に関する新知見—不動明王画像修理報告—
 高田修 柳澤孝著「園城寺国宝金色不動明王画像(黄不動)に関する新知見」を読んで
 崔聖銀/芹生春菜訳 開泰寺石像三尊仏立像の研究—新たな統一王朝高麗の出現と仏教彫刻—
 戸田禎佑 展覧会評 琳派展(東京国立近代美術館) 雑感



『美術研究』

『日本美術年鑑』(⑥美 10-04-4/5)

日本美術年鑑は、わが国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。美術部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が昭和11年から始めた「日本美術年鑑」の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。昨年刊行した平成12版において、収録すべき情報の精選と分類の見直しをはかったが、今年度刊行した平成15年版においても、その方針を引き継ぎ編集した。平成15年版は、下記のような構成をとり、B5版28ページとなった。

2002(平成14)年美術界年史

美術展覧会(企画展、作家展、団体展)

美術文献目録

定期刊行物所載文献

美術展覧会図録所載文献(企画展、作家展)

物故者



『日本美術年鑑』

『芸能の科学』（⑥芸 11-04-4/5：芸能部出版関係事業の一環として実施）
古典芸能や民俗芸能に関する研究論文、調査報告、資料翻刻等を掲載している。

『芸能の科学』第 32 号

豊原英秋撰『瑞鳳集』について	近藤 静乃
調査報告・各地に伝承された横笛	高桑いづみ・野川美穂子
絵空事の合奏	高桑いづみ
人形浄瑠璃『勧進帳』諸本の比較研究—詞章を中心に—	鎌倉 恵子
二代目鶴沢清八『義太夫 名人の型』—「明治文楽」追懐—	飯島 満
民俗芸能の由来語りの近代性—揖斐郡の太鼓踊りの事例から—	俵木 悟
ブロック別民俗芸能大会—その歴史と現在—	宮田 繁幸



『芸能の科学』

『保存科学』（⑥保 09-04-4/5）

所属研究員による文化財の保存と修復に関する科学的調査、研究、受託研究報告等の論文、報告および修復処置概報等を掲載している。

『保存科学』第 44 号

尾形光琳筆 紅白梅図屏風の蛍光 X 線分析

早川泰弘、佐野千絵、三浦定俊、内田篤呉

紫外・可視反射スペクトル法による染料非破壊分析のための基礎研究— (1)

吉田直人、三浦定俊

FCR によるトヨタコレクションの調査

三浦定俊、松島朝秀

印刷用製版オルソフィルム RO-110 と HS のエミシオグラフィ撮影用フィルムとして
の特徴

松島朝秀、三浦定俊

カミキリムシに食害された竹製品の低温処理による殺虫事例
高濃度二酸化炭素ガス中におけるヒノキ材のひずみの測定

木川りか、大下芳博

犬塚将英、木川りか、佐野千絵、石崎武志

日本画用画材に対する酸性溶液・アルカリ性溶液およびホルマリンの影響

佐野千絵、福岡葉子、大野 彩

印刷インキに用いられる有機赤色顔料への室内汚染ガスの影響

森 克之、佐野千絵

川越市山車収蔵庫施設内の温湿度変化の実測と解析

石崎武志、高見雅三、古谷太慈、ジョン・グルネワルド

九州国立博物館の壁付展示ケースにおける換気回数、温度、相対湿度の測定

犬塚将英、鳥越俊行、石崎武志、本田光子

20GHz-TDR 装置を使った比誘電率測定の特徴

登尾浩助、君島章太郎、石崎武志、武田一夫

土壁の水分吸収・放出に関する基礎的研究

朽津信明、森井順之

鎌倉市百八やぐらの保存を目的とした亀裂計測

朽津信明、李 心堅、関 博允、森井順之、遠藤 努

文化財の強度測定法と風化度合いの定量化について

朽津信明、李 心堅、関 博允

敦煌莫高窟 53 窟仏龕周辺における土壁中の可溶性塩類について

谷口陽子、森井順之、陳 港泉、蘇 伯民

事例報告：彩色漆喰上の汚れ除去に関する試み

早川典子、山本記子

高松塚古墳における 30 年間の気温変動

三浦定俊、石崎武志、赤松俊祐

遺跡等で使用する樹脂のカビへの抵抗性について

木川りか、早川典子、山本記子、川野邊渉、佐野千絵、青木繁夫

キトラ古墳開封前の石室内空気環境調査報告

佐野千絵、間瀬 創、三浦定俊

キトラ古墳の前室および石室における菌類調査報告

木川りか、佐野千絵、間瀬 創、三浦定俊

展示公開施設の館内環境調査報告—平成 15 年度—

石崎武志、佐野千絵



『保存科学』

『東京文化財研究所年報』(③情 03 の一環として実施)
 広報企画事業(③情 03)の一環として実施した(69頁参照)。

近代の文化遺産の保存修復に関する報告書『未来につなぐ人類の技4 鉄道の保存と修復Ⅱ』(①修 01 の一環として実施)

はじめに

刊行にあたって

目次

Part. 1 鉄道関連施設の保存修復と活用

文化財としての鉄道関連施設の修復と保存

川野邊 渉

鉄道施設を中心とした近代化遺産保護の現状

大和 智

地域での鉄道文化財活用について

堤 一郎

鉄道橋の保存事例について

小西 純一

土木史的観点から見た鉄道トンネル

小野田 滋

Part. 2 ヨーロッパにみる鉄道文化財の保存修復と活用

ドイツ、ベルリン交通技術博物館における歴史的鉄道建築物保存の取り組み

アルフレッド・ゴットヴァルト

背景を考慮した展示—鉄道軌道と歴史的鉄道車両 転がり抵抗軽減の400年

ジム・リース

スイスにおける鉄道建造物と車両の保存

ハンス・ピーター・ベルチ

ドイツにおける歴史上重要な鉄道基盤施設の保存と保護

ロルフ・ホーマン

Part. 3 ヨーク鉄道博物館にみる鉄道文化財保存修復の意義

英国鉄道博物館と日本

菅 建彦

英国における鉄道文化遺産の管理について

アンドリュー・ジョン・スコット

ヨーク国立鉄道博物館における所蔵品の管理と保存

ヘレン・アシュビー

鉄道関連施設の現地調査

質疑応答

編集後記



『未来につなぐ人類の技4
 鉄道の保存と修復Ⅱ』

近代の文化遺産の保存修復に関する報告書『Conservation of Railway I』

(①修 01 の一環として実施)

Foreword

About This Booklet

Contents

Part 1: Conservation and Utilization of the Railway Heritage in Japan

Conservation and Utilization of Modern Scientific and Industrial Heritage

Tomisaka, Ken

Conservation and Maintenance of the Modern Technological and Industrial Heritage

Tomisaka, Ken

Restoration of Rolling Stock and Their Conservation and Utilization

Kawanobe, Wataru

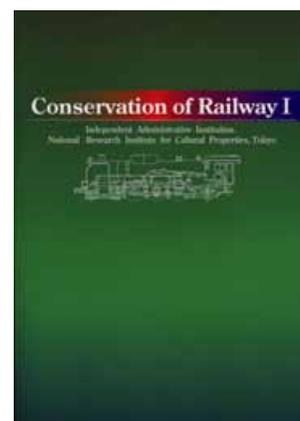
Conservation of Railway Cultural Properties

Hirano, Naoki

Part 2: Conservation of Railway Vehicles and Its Ideas in Japan

Conservation of Railway Vehicles at the Open-Air Museum: Its Present Condition and Tasks

Satoh, Takuji



Conservation of Railway I

On the Management of Kaya Steam Locomotive Square	Sudo, Yosuke
Looking Back on the Railway Preservation by Oigawa Railway Company	Shirai, Akira
Conservation and Maintenance of Steam Locomotives	Sugimoto, Kazumasa
Restoration Project of a Type B20 Steam Locomotives	Yamasaki, Etsuo
The Role of Volunteers in the Preservation of the Railway Heritage	Sasada, Masahiro
Part 3: Conservation of Railway Vehicles and Its Idea in Europe and North America	
Conservation and Restoration of the Railway Heritage as Seen at German and British Museums - Study Trips to Three Museums in York, Berlin and Munich -	Kawanobe, Wataru
Railway Rolling Stock Conservation	Richard Gibbon
Queen Victoria's Saloon	Helen Ashby
Philosophy and Experience of Restoration for Railway Objects at the Berlin Museum of Transportation and Technology	Alfred Gottwaldt
Restoration in the Electric Field of Volunteer Engagement and Professional Requirements: The Prussian T3 at the DB Museum	Joachim Breuninger
The Management of Decay: A Practical Approach to the Preservation of Historic Railway Artifacts	Thomas A. Troszak
Discussion on the Conservation of Railway Heritage	
Editorial Postscript	

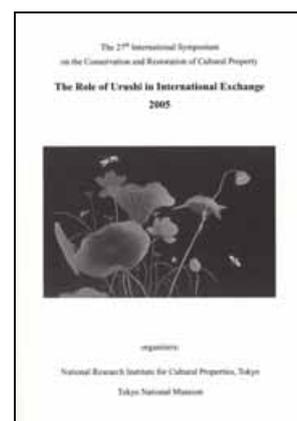
第 27 回文化財の保存・修復に関する国際研究集会報告書

『The 27th International Symposium on Conservation and Restoration of Cultural Property—The Role of Urushi in International Exchange—』(⑥修 15-04-1/1)

2003 (平成 15) 年 12 月 3 日から 5 日まで、東京国立博物館平成館大講堂にて開催した第 27 回文化財の保存修復に関する国際研究集会「漆が語る国際交流」(修復技術部担当)の報告書を下記の内容で刊行した。

Contents

Welcome Speech	WATANABE Akiyoshi
Session 1: Urushi Objects in Overseas Collections	
"Gorgeous <i>Maki-e</i> Lacquerware from the Edo Period": Layout for the Exhibition and Description of Objects	KOMATSU Taishu
Meiji-Period Export Lacquer and the Hungarian Collectors of Japanese Lacquer Ware	Monika BINCSIK
The Cylindrical Japanese <i>Namban</i> Lacquer Box: From the Collection of Pitti Palace at Florence and the Related Documents of the Medici Family	KOYAMA Mayumi
<i>Namban</i> Urushi Objects in Portugal	Pedro ABREU
Japanese Lacquerware from the Main Czech Collections from the 17th and 18th Centuries, Part II	Filip SUCHOMEL
The Japanese Collection of Lacquerware in the Victoria and Albert Museum (V&A)	Julia HUTT



第 27 回文化財の保存・修復に関する国際研究集会報告書

Japanese Lacquerware in the National Palace Museum, Taipei
(Keynote Lecture) On the Concept of the Restoration and Reproduction of Cultural Properties in Japan
NAGASHIMA Meiko
SUZUKI Norio

Session 2: Restoration and Reproduction of Urushi Cultural Properties

Restoration and Reproduction of Urushi Objects in the Shosoin Treasure House
Repair and Reproduction of Konjikido at Chusonji Temple
Reproduction of Urushi Furniture at Chusonji Temple
Traditional Urushi Coating Material and its Future
The Conservation of a Burmese Dry Lacquer Statue of Buddha
KIMURA Norimitsu
NAKASATO Toshikatsu
KONISHI Takuya
KATO Hiroshi
Frank MINNEY

Session 3: Recent Cases of Restoration

On the Conservation and Restoration of the Small Shrine at Sentaiji
On the Conservation and Restoration of the Mazarin Chest
The Plan for the Conservation of the Mazarin Chest
Study on Lacquering Art Technology of Lacquer Ware Objects with Mother-of Pearl
Inlay of the Joseon Dynasty and Their Restoration
KITAMURA Shosai
Shayne RIVERS
YAMASHITA Yoshihiko
Kyoung Su KIM
The Restoration of a Red Lacquered Ink Stone Box Decorated with Bamboo, Joseon Dynasty
Yong Hee YI
The Development of Conservation of Japanese Armors and Lacquerware in Hungarian Public Collections
Balazs LENCZ

GENERAL DISCUSSION

第12回アジア文化財保存セミナー報告書 (英文) (⑥セ 32-04-1/1)

Proceedings of the 12th Seminar on the Conservation of Asian Cultural Heritage

2004 (平成16)年12月8日(月)～12日(金)に実施された「第12回アジア文化財保存セミナー」の報告書である。このセミナーは平成13年度から5年間の予定で「アジア諸国の文化財保護制度」をテーマとして行われているが、当該年度はアジア諸国の文化遺産の保護制度とその国の信仰、民族、経済などとの関わりについて事例紹介・討議が行われた。この報告書は、各国の文化財保護制度と社会との関係についての発表と、質疑応答の内容をまとめたものである。

[目次]

PROGRAM

Overview of the Seminar (INABA Nobuko)

2003 Seminar: Society and the System for the Protection of Cultural Heritage

Country Report of Japan (OKADA Ken)

The Relationship between Social Changes and Systems for the Protection of Diverse Types of Cultural Heritage: Examples from Japan

Country Report of Korea (KIM Gwongu)

Changing Socio-political and Economic Environments and the Korean Heritage Management System

Country Report of China (LÜ Zhou)

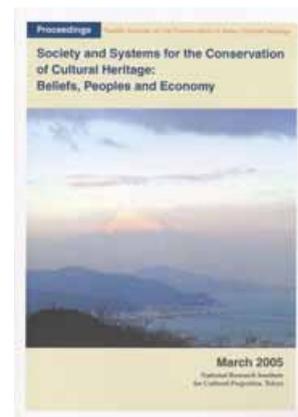
System for the Conservation of Cultural Heritage and Society in China

Country Report of Vietnam (NGUYEN Quoc Hung)

Society and Systems for the Conservation of Cultural Heritage in Vietnam

Country Report of Thailand (Pichya BOONPINON)

The Development and Adaptation of Thai Culture: Remainder and Change



第12回アジア文化財保存セミナー報告書

Country Report of Philippines (Emelita V. ALMOSARA)

The Conservation of the Basilica of San Sebastian

Country Report of Iran (Adel FARHANGI SHABESTAR)

Conservation of Cultural Heritage in a Changing Society

Country Report of India (Amita BAIG)

Sacred Heritage and Society

Country Report of Sri Lanka (Jagath WEERASINGHE)

Cultural Heritage and Society in Sri Lanka

Overall Discussion

ANNEX

Excursion (Mount Fuji and its vicinities)

Photos

List of Participants

国際文化財保存修復研究会報告書 (⑥セ 12-04-4/4)

この報告書は、国際文化財保存修復研究会で行われた報告、質疑応答、総合討議等の内容をまとめたものである。平成16年度は第15回、第16回研究会について、それぞれ報告書を作成した。

第15回国際文化財保存修復研究会報告書 (2005年2月発行)

叢書 [文化財保護制度の研究] 日干し煉瓦の保存

[目次]

[序] 岡田 健

[開会挨拶] 渡邊明義

[趣旨説明] 朽津信明

[1] 発表と質疑応答、討議

「日乾煉瓦遺構の保存をめぐる世界の実状」

岡田保良

「エジプト・アブ・シール南丘陵遺跡から出土した日乾煉瓦遺構の保存修復」

長谷川奏・柏木裕之

「日干しレンガ及び焼成レンガの水理特性と長期健全性評価」

渡辺邦夫・天野健治

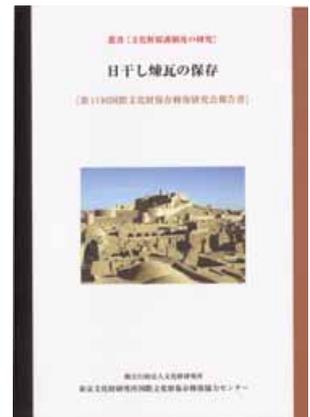
[2] 総合討議と総括

「総合討議」

「「分析屋」からのメッセージ：日干し煉瓦でつなぐ架け橋」 朽津信明

[発表者紹介]

[参加者名簿]



第15回国際文化財保存修復研究会報告書

第16回国際文化財保存修復研究会報告書 (2005年3月発行)

叢書 [文化財保護制度の研究] "文化的景観"の意義—その保全、管理、今後の課題—

[目次]

[序] 岡田 健

[開会挨拶] 青木繁夫

[趣旨説明] 岡田 健



第16回文化財保存修復研究会報告書

[1] 発表と質疑応答

「文化財保護法における"文化的景観"導入の意味と今後の展望」	本中 眞
「国際的に見る"文化的景観"保護の動向」	稲葉信子
「景観法について」	榑野良明
「“文化的景観”の保全、管理—その技術的課題」	矢野和之
「環境歴史学と文化的景観」 飯沼賢司	
「中国における"文化的景観"の動向と日本の取組みへの期待」	杜 曉帆

[2] 総合討議

[発表者紹介]

[参加者名簿]

『民俗芸能研究協議会報告書』(⑥芸 11-04-4/5 : 芸能部出版関係事業の一環として実施)

芸能部では毎年テーマを定め、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して民俗芸能の保護と継承について研究協議する会を開催している。第7回に当たる本年は「民俗芸能の公開をめぐる」をテーマとして開催し、その報告・総合討議の内容などをまとめて報告書として刊行した。

テーマ「民俗芸能の公開をめぐる」

1. 序にかえて 鈴木規夫(東京文化財研究所長)

2. 事例報告

* 報告1 民俗芸能大会をめぐる今日の状況

宮田繁幸(東京文化財研究所芸能部民俗芸能研究室長)

* 報告2 全日本郷土芸能協会の公開事業—全国こども民俗芸能大会を中心として—

城井智子(社団法人全日本郷土芸能協会専務理事)

* 報告3 『北上みちのく芸能まつり』の企画について

加藤俊夫(北上みちのく芸能まつり運営委員)

* 報告4 『郷土芸能と民謡の会』から『全国民俗芸能大会』へ

山路興造(民俗芸能学会代表理事)

3. 総合討議

4. 参考資料

5. アンケート集計結果

6. あとがき



民俗芸能研究協議会報告書

在外日本古美術品保存修復協力事業報告書

『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成16年度(絵画/工芸品)』

(②修05の一環として実施)

平成15年度、在外日本古美術品保存修復協力事業の対象作品の修復に関する報告。2005(平成17)年3月31日発行。

・報告書の刊行にあたって 鈴木 規夫

・在外日本古美術品の事業報告 渡邊 仁之

・カラー口絵【絵画】

【絵画篇】

「不空羼索観音二神像」: 大英博物館 修理報告 藤岡春樹/作品解説 勝木 言一郎



在外日本古美術品
保存修復協力事業報告書

伝狩野山楽筆「四季耕作図屏風」(田植え・灌水)：ミネアポリス美術館

修理報告 岡 泰央／作品解説 鈴木 廣之

「十一面観音菩薩像」：サンフランシスコ東洋美術館

修理報告 山口聡太郎／作品解説 津田徹英

俵屋宗達画本阿弥光悦書「鹿下絵和歌巻」：シアトル美術館

修理報告 堀田 圭吾／作品解説 鈴木 廣之

「芭蕉図屏風」：ホノルル美術館

修理報告 八木 忠彦／作品解説 鈴木 廣之

伝土佐光吉筆「源氏物語図屏風」：ホノルル美術館

修理報告 関地 久治／作品解説 綿田 稔

・カラー口絵【工芸品】

〔工芸品篇〕

「唐草螺鈿空穂」：メトロポリタン美術館

小西美術工藝社

「移鞍」：メトロポリタン美術館

北村 昭斎

「源氏蒔絵化粧箱」：バイエルン民俗博物館美術館

山下 好彦

蔵書目録 (⑥情 05-04-4/5)

『東京文化財研究所蔵書目録 4 日本東洋古美術関係 欧文編』『東京文化財研究所蔵書目録 5 (上) 和雑誌 目録編』『東京文化財研究所蔵書目録 5 (下) 和雑誌 索引編』



現在、東京文化財研究所が所蔵する図書は約 11 万冊、雑誌は約 3,100 種 9 万冊を数えている。資料閲覧室では、所蔵図書資料の目録作成を 5 年計画で進めており、既刊の『東京文化財研究所蔵書目録 1 西洋美術関係』(2002 年 3 月刊)、『東京文化財研究所蔵書目録 2 日本東洋近現代美術関係』(2003 年 3 月刊)、『東京文化財研究所蔵書目録 3 日本東洋古美術関係 和文編』(2004 年 3 月刊) に続いて、2004 年度は、『東京文化財研究所蔵書目録 4 日本東洋古美術関係 欧文編』(2004 年 6 月刊)、『東京文化財研究所蔵書目録 5 和雑誌』(上) 目録編 (下) 索引編 2 分冊 (2005 年 3 月刊) を刊行した。

『4 日本東洋古美術関係 欧文編』(口絵 11 点、134 頁) は、日本東洋の古美術に関する欧文図書 1,257 件の書誌情報を著者名順で配列し、末尾に書名索引を付した。

『東京文化財研究所蔵書目録 5 和雑誌 (上) 目録編』

口絵では 19～20 世紀初頭に欧米のコレクターや研究者により刊行された日本美術の

紹介本や、蔵書形成に寄与された方々の旧蔵本などを紹介している。序には蔵書形成に深く関わった創立期の所員「尾高鮮之助について」(美術部・中野照男) の一文を掲載した。なお、国内外の主要な美術館博物館をはじめ、関連する諸機関 (530 件) へ配布した。

『5 和雑誌』は「目録編」(口絵 97 点、601 頁) と「索引編」(181 頁) の 2 分冊とした。「目録編」は所蔵する雑誌の中から 97 点の創刊号を口絵で紹介し、文星芸術大学教授青木茂氏の序に続いて、タイトル数 2,445 種、全 71,893 冊の所蔵和雑誌を 50 音順で配列し、各号 (通号、刊号) の発行年月日を収録した。「索引編」は 2,445 種の書誌情報 (雑誌名、編者、刊者、創刊年月日、終刊年月日、誌名変遷など 10 項目)、所蔵雑誌創刊年順一覧、誌名変遷一覧を収録した。なお、国内外の主要な美術館博物館をはじめ、関連する諸機関 (678 件) へ配布した。

研究組織

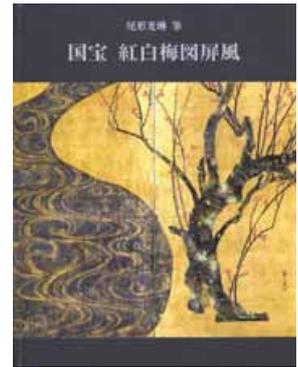
○山梨絵美子、皿井 舞、中村 節子 (以上、協力調整官—情報調整室)

画像形成技術の開発に関する研究報告書『国宝 紅白梅図屏風』(①情 01 の一環として実施)

MOA 美術館と共同で行った「紅白梅図屏風」(尾形光琳筆、MOA 美術館蔵) の調査研究の成果を以下の内容で刊行した。

【目次】

ごあいさつ MOA 美術館長	吉岡庸治
刊行にあたって 東京文化財研究所長	鈴木規夫
図版	
作品そのものから情報を取り出す試み	東京文化財研究所情報調整室
紅白梅図屏風の研究史をめぐって	内田篤呉
国宝紅白梅図屏風の画像制作について	城野誠治
紅白梅図屏風の透過 X 線調査	三浦定俊、松島朝秀
紅白梅図屏風の蛍光 X 線分析	早川泰弘
「紅白梅図屏風」関連資料	中村節子、皿井舞
History of Research on Korin's <i>Red and White Plum Blossoms</i>	
Summaries	Uchida Tokugo



『国宝 紅白梅図屏風』

『日本東洋古美術文献目録 一九六六～二〇〇〇年 定期刊行物所載』

(①美 04 の一環として実施)

美術部のプロジェクト「東アジア地域における美術交流の研究⑤日本・東洋美術研究文献の活用に関する調査・研究」の報告書として刊行された。1966（昭和 41）年から 2000（平成 12）年まで、35 年間の『日本美術年鑑』の「定期刊行物所載文献・東洋古美術」欄に収録された書誌データ（タイトル、著者名、誌名、巻号、発行年月）40,766 件を漏れなく収録し、これに採録漏れの文献 2,576 件を加えて増補し、総計 43,342 件の書誌データ（ただし、数字は連載記事を毎回数え、重出分を差引いた値である）が本目録に収録された。巻末に著者名索引をのせて活用の便をはかった。1969（昭和 44）年に、1936（昭和 11）年から 1965 年（昭和 40）年までの文献を収録した『日本東洋古美術文献目録 昭和 11 年～40 年 定期刊行物所載』が美術部の編集によって刊行され、この分野唯一の文献目録として高い評価を得てきた。本書はこの目録の続編にあたる。



『日本東洋古美術文献目録 一九六六～二〇〇〇年 定期刊行物所載』

『大正期美術展覧会の研究』(①美 05 の一環として実施)

美術部のプロジェクト「日本近代美術の発達に関する調査・研究—昭和前期を中心に」(①美 05) の一環として刊行した。平成 13 年度に刊行した『大正期美術展覧会出品目録』を基礎に、所内外の研究者による論文 34 編、インタビュー、資料等で 7 章にわたって構成した。論文題名、執筆者等は、下記のとおりである。(B5 版、本文 740 頁)



『大正期美術展覧会の研究』

序	鈴木規夫
前書	
第一章 展覧会をつくる／観る	
序論 「おわり」と「はじまり」—夏目漱石「文展と芸術」をめぐって	田中淳
美術の一般化と近代観衆の出現—「絵画の約束」論争を中心に	五十殿利治 (筑波大学)
展覧会と天分	マイケル・リュケン (フランス国立東洋言語文化研究所)
第二章 大正期の美術展覧会	
再興日本美術院のひとつと—あるいは大正期の大観	塩谷純
日本彫刻会—木彫の受容／需要	沓沢耕介 (早稲田大学)

日本創作版画協会と「版画家」の行方

金鈴社再考

国画創作協会の諸相

中央美術展覧会—美術団体の運営

春陽会—その成立と源流

円鳥会の成立と消滅—萬鐵五郎を中心として

二科会とサロン・ドートンヌ

一九三〇年協会のメディア戦略と外山卯三郎

第三章 美術家たちのネットワーク

満谷国四郎の大正時代—小杉未醒との比較を中心に

竹久夢二と大正期の洋画家たち—光風会・フェウザン会・二科会の周辺

生命主義の培養基—新宿中村屋と芸術家たち

大正初期から中期における小団体、小グループの相関関係—行樹社と八火会を中心として

「目の生活の事業」—「画家」西村伊作の位置

横井弘三の理想大展覧会について

東京漫画会—岡本一平を中心に

第四章 美術と社会、あるいは地域のなかの美術

黒田清輝と国民美術協会

展覧会場と山本鼎—大正七年から八年にかけての美術館期成運動をめぐる

1910年代、台湾の美術活動—殖民地官方品味の変遷

近代日本彫刻と第一次世界大戦

彫刻の社会化—東台彫塑会と構造社展を中心に

大阪市美術協会結成における紛擾と「大大阪」の日本画壇・洋画壇

二科会—久留米の画家たちから

筑後の画家と二科関連年表

第五章 表現とメディアの多様化

官展・院展の日本画—琳派の傾向を中心に

「草土」の変容—大正期絵画にみる生命の図像

柳宗悦と〈近代美術史〉—〈見る〉という実践

「朝鮮美展」東洋画部における人物画の研究—韓国近代人物画の成立

三宅克己と「趣味」の写真

越境する〈矢印〉—『マヴォ』、『死刑宣告』の周辺

図案の拡張と転位

第六章 近代日本美術史研究を語る

フワフワとした大正時代—明治からみた「美術と作家」について

美術館・展覧会・文化財研究所—戦後の「近代日本美術」研究を語る

第七章 資料

本研究関係美術展覧会年表

本研究関係美術団体相関図

大正初期の雑誌における版表現—『月映』誕生の背景を探る

瀬尾典昭 (渋谷区立松涛美術館)

横山秀樹 (新潟県立万代島美術館)

上藪四郎 (笠岡市立竹喬美術館)

山本丈志 (秋田県立近代美術館)

田中正史 (小杉放庵記念日光美術館)

佐々木一成 (岩手県立美術館)

江川佳秀 (徳島県立近代美術館)

大谷省吾 (東京国立近代美術館)

廣瀬就久 (岡山県立美術館)

桑原規子 (聖徳大学)

小泉淳一 (茨城県近代美術館)

菊屋吉生 (山口大学)

水沢勉 (神奈川県立近代美術館)

滝沢恭司 (町田市立国際版画美術館)

湯本豪一 (川崎市市民ミュージアム)

山梨絵美子

小林未央子

顔娟英 (国立台湾大学芸術史研究所)

田中修二 (大分大学)

齊藤祐子 (筑波大学)

橋爪節也 (大阪市立近代美術館準備室)

植野健造 (石橋美術館)

森山秀子 (石橋美術館)

古田亮 (東京国立近代美術館)

河田明久 (早稲田大学)

土田真紀 (帝塚山大学)

李仲熙 (啓明大学校美術大学)

増田玲 (東京国立近代美術館)

谷口英理 (東京芸術大学)

森仁史 (松戸市・美術館準備室)

青木茂 (美術部調査員)

陰里鉄郎 (女子美術大学)

小林未央子

寺口淳治・井上芳子 (和歌山県立近代美術館)

第33回文化財保存修復研究協議会報告書『古墳や洞窟内の水分の影響と保存対策』(⑥保19-04-1/1)

2004(平成16)年1月23日に、保存科学部の担当で開催した第33回文化財保存修復研究協議会の記録を刊行した。協議会は海外からも発表者を招いて行ったので、記録は日本語・英語の2言語で作成した。内容は下記の通り

である。

開催要項

- | | |
|--|-------------------|
| ラスコー洞窟：発見から現在まで | ジャック・ブリュネ |
| 王塚古墳の環境と保存の取り組み | 長谷川清之 |
| 高松塚古墳周囲の水分環境と石室壁面の水分量 | 石崎武志 |
| 韓国武寧王陵での保存対策 | 徐 萬哲 |
| 総合討議 | |
| The Complex Story of Lascaux Cave from Its Discovery to Now | Jacques BRUNET |
| Environment of Ouzuka Tumulus and its Conservation | Kiyoyuki HASEGAWA |
| Study on the Water Regime around a Tumulus With Mural Paintings | Takeshi ISHIZAKI |
| A Geotechnical Study for Conservation of the Muryong Royal Tomb of the Baekje Dynasty, Korea | Mancheol SUH |
| Overall Discussion | |



第 33 回文化財保存修復研究協議会報告書

国際研修「紙の保存と修復」報告書 (⑤修 14 の一環として実施)
International Course on Conservation of Japanese Paper 2004

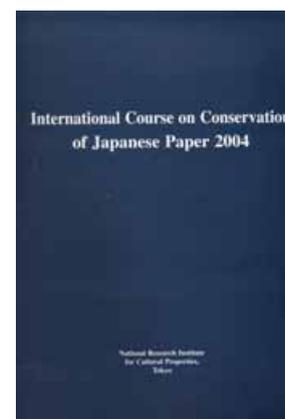
目次

刊行にあたって

講義

- | | |
|-----------------------|---------------------------------------|
| 装潢技術概論 | 岡 泰央 (株式会社岡墨光堂) |
| 和紙について | 大川昭典 (吉備国際大学講師) |
| 絵画材料・装潢材料とその使い方 | 山本記子 (東京文化財研究所) |
| 日本の紙修復材料について～膠着剤を中心に～ | 早川典子 (東京文化財研究所) |
| 日本の紙文化の保存 | 池田 寿 (文化庁) |
| 紙資料の大量強化処理の試み | 園田直子 (国立民族学博物館) |
| 研修旅行 京都・高知 | |
| 実技：刷毛／糊／卷子／掛軸／屏風／冊子 | 森 香代子 (国宝修理装潢師連盟)
鈴木 裕 (国宝修理装潢師連盟) |

ディスカッション



国際研修「紙の保存と修復」報告書

フランスにおける文化財保護制度と保存活用に関する調査研究報告書 (⑥セ 29-01-1/1)

叢書 [文化財保護制度の研究] 『フランスに於ける歴史的環境保全—重層的の制度と複層的組織、そして現在—』

[目次]

第0部：序

- 0-1. 重層的の制度と複層的組織、そして現在—フランス文化財保護制度調査の視角 (稲葉信子)
- 0-2. フランスの基礎知識 (鳥海基樹)
- 0-3. フランスに於ける歴史的環境概念と現況 (鳥海基樹)

第1部：歴史的環境保全のための重層的の制度

- 序：文化財法典法律編による文化財保護制度の集約化・明確化 (鳥海基樹)

第1章：歴史的モニュメント（鳥海基樹）

コラム：『1950年代のフランス文化財』（飯田喜四郎） Charles Wagner / Robert Williams

第2章：保全地区

- 2-1. 保全地区（SS）制度概論（鳥海基樹）
- 2-2. 実例1：パリ・マレ保全地区（荒又美陽）
- 2-3. 実例2：ボルドー保全地区（鳥海基樹+平賀あまな）

コラム：『歴史的環境の保存的再開発事業—パリのマレ地区を訪ねて』（木原啓吉）

第3章：建築的・都市的・景観的文化財保護区域（ZPPAUP）

- 3-1. 建築的・都市的・景観的保護区域（ZPPAUP）制度概論（鳥海基樹）
- 3-2. 実例：リヨン市クロワ・ルス保護区域（鳥海基樹）

第4章：景勝地（鳥海基樹）

第5章：都市計画を通じた歴史的環境保全

- 5-1. フランスの都市計画制度（鳥海基樹）
- 5-2. 実例1：パリ市の特別土地占用プラン（鳥海基樹）
- 5-3. 実例2：パリ市の眺望景観規制（鳥海基樹）

第2部：歴史的環境保全のための複層的組織

序：文化財建築家の職能と専門家を活かす組織

第1章：文化財建築家の養成と職能

- 1-1. シャイヨー高等研究センター（鳥海基樹）
- 1-2. 歴史的モニュメント監視建築家（ABF）（鳥海基樹）
- 1-3. 歴史的モニュメント主任建築家（ACMH）（鳥海基樹）

第2章：行政組織

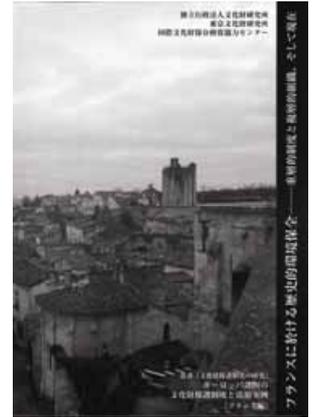
- 2-1. 文化省コミュニケーション省建築・文化財部（鳥海基樹）
- 2-2. 地方圏文化局（鳥海基樹）
- 2-3. 県建築・文化財課（鳥海基樹）

第3部：フランス歴史的環境保全の現在

- 3-1. 産業遺産（北河大次郎）
- 3-2. 国有モニュメント・センターと文化財のプロモーション（鳥海基樹）
- 3-3. 文化財台帳の発信（二神葉子）
- 3-4. 歴史的環境把握のためのIT活用（鳥海基樹）

第4部：資料

- 4-1. 文化財法典（試訳）（今井健一郎+鳥海基樹+二神葉子）
- 4-2. 現地調査及び講演会概要（平賀あまな+二神葉子）
- 4-3. 東京文化財研究所所蔵フランス文化財保護関連資料目録（二神葉子）
- 4-4. 対訳一覧（鳥海基樹）



フランスにおける文化財保護制度と保存活用に関する調査研究報告書

『青木繁《海の幸》—美術研究作品資料—第3冊』(①美03の一環として実施)

美術部のプロジェクト「東アジア地域における美術交流の研究④重要美術作品資料集に関する研究」の報告書として刊行された。今回は、明治期の近代洋画を代表する作品として著名な青木繁「海の幸」(石橋財団石橋美術館蔵)をとりあげ、『美術研究作品資料第3冊』とした。判型はB4判。近赤外線画像、原寸大16分割フルカラー画像など、モノクロおよびカラーの図版34点を収録した。本文は次の論文、資料、英文要旨などで構成されている。

田中淳(東京文化財研究所)「《海の幸》誕生まで」

植野健造(石橋美術館)「名作ものがたり：青木繁《海の幸》の100年」

城野誠治(東京文化財研究所)「デジタル画像の制作について」

石井亨(石橋財団)「《海の幸》再考：ものとしての絵画」

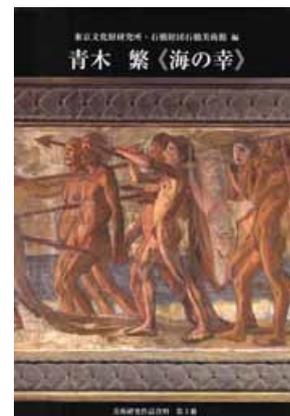
森山秀子(石橋美術館)編「白馬会第9回展出品時の批評 附：蒲原有明「海の幸」の改作の変遷」

植野健造編「青木繁《海の幸》関連年表 青木繁《海の幸》展覧会歴、石橋コレクション巡回展での出品歴」

植野健造編「青木繁年表」

森山秀子編「青木繁文献」

英文要旨



『青木繁《海の幸》
美術研究作品資料 第3冊』

『DVD 文化財生物被害防止ガイド』『文化財のカビ被害防止チャート』
『文化財害虫事典 2004年改訂版』(保02の一環として実施)

長く文化財の生物被害処置に使用されてきた臭化メチルが2004(平成16)年末で生産停止となった。当所では臭化メチル全廃後の生物被害対策として、化学薬剤のみに頼らない生物被害対策である総合的有害生物管理(IPM)の普及に力を入れており、平成16年度は『文化財生物被害ガイドブック』の資料編を改訂しネット上で公開したほか、標記の3刊行物を出版した。

『DVD 文化財生物被害防止ガイド』は『文化財生物被害ガイドブック』をテキストとした構成で、第1巻「害虫対策の進め方」(講義 IPMについて、実演 IPMの進め方①問題点を見つける/被害歴の調査、②衛生管理と遮断、③害虫等の発見)、第2巻「対処法の実際」(講義 処置法の解説、代替燻蒸剤について、蒸散性防虫剤について、実演 低酸素濃度処理、二酸化炭素処理、低温処理)に分かれている。「ガイドブック」をテキストとしてDVDを見ることで、害虫対策の流れや実際の処理法の具体的なイメージを得ることができるよう製作した。DVDは2004年7月にクバプロより市販を開始した。

『文化財のカビ被害防止チャート』は臭化メチル製剤の使用ができなくなることでカビ被害への対応を悩んでいる博物館保存担当者向けに発行されたもので、学芸員室などに貼って対処できるようポスターの形としている。カビの性質、文化財への被害例に始まり、IPMの考え方に沿って、1. 準備/被害歴の調査と施設点検、2. 回避/水分制御と清掃、3. 遮断/収納前の資料清掃と隔離、4. 発見と処置、5. 管理体制の見直し、の構成となっている。

印刷部数1,000部のため、各都道府県教育委員会および都道府県立博物館、国立博物館を中心の配付となったが、A3サイズのパワーポイント版については、要請のあった公共団体等主催の研修等に提供し、好評をいただいている。



『DVD 文化財生物
被害防止ガイド』



文化財のカビ被害防止チャート

⑥刊行物 Area14

『文化財害虫事典 2004年改訂版』は、好評をいただき完売した2000年度発行『文化財害虫事典』の資料編を改訂したもので、最新の情報を普及するために製作した。クバプロより頒布中である。

『韓日共同研究報告書 2004』(①修 03 の一環として実施)

国際共同研究「文化財における環境汚染の影響と修復技術の開発研究」に関する日韓共同研究報告書。

大韓民国文化財庁・国立文化財研究所との共同刊行。A4版、105頁。

目次

石造文化財の生物被害除去法案の研究	鄭 容在
磨崖仏における生物制御の試み	川野邊 渉
磨崖仏保存処理の事例—沃川龍岩寺磨崖仏—	金 思恵
国東塔の修理事例報告	川口 孝
レーザーを利用した汚染物洗浄技術に関する研究	金 振亨
朱漆に関する研究—碑石を中心に—	愼 銀貞・韓 ミン洙
白杵磨崖仏保存調査	
—古園石仏群における凍結破砕と覆屋内風環境—	森井 順之
中原彌勒里寺址保存環境の調査研究	洪 正基



『韓日共同研究報告書 2004』

『伝統的修復材料に関する調査研究Ⅲ』(①修 06 の一環として実施)

目次

刊行にあたって	加藤 寛
刻線—琉球沈金と沈金刀の変遷	宮城 清
蒔絵手板の紫外線照射試験	星 恵理子
	加藤 寛
	神谷 嘉美
打紙について	大柳 久栄
	加藤 恵
料紙・染紙の打紙についての考察	加藤 恵
	大柳 久栄
アンケート結果	



『伝統的修復材料に関する調査研究Ⅲ』

『敦煌莫高窟壁画保存修復に関する日中共同研究報告 2004』(①修 02 の一環として実施)

目次

平成 16 年度敦煌莫高窟壁画の保存修復に関する日中共同研究	加藤 寛
敦煌莫高窟 53 窟壁画の保存修復に関する現地調査報告 (2004 年)	田畔 徳一、半田 正博、宇田川 滋正
敦煌莫高窟第 53 窟壁画の保存修復研究	西尾 太加二
東京、京都、奈良における紙絹画の保存修復及び 大分地区磨崖仏の環境調査研修報告	陳 港泉 (翻訳: 井上 豪、張 俐)
2004 年 敦煌莫高窟壁画彩色技法研究班調査日記	皿井 舞
敦煌莫高窟 53 窟仏龕周辺における土壁中の可溶性塩類について	谷口 陽子、森井 順之、陳 港泉、蘇 伯民

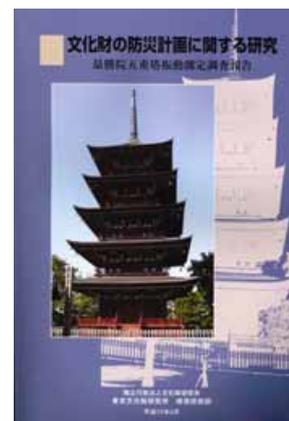


『敦煌莫高窟壁画保存修復に関する日中共同研究報告 2004』

『文化財の防災計画に関する研究—最勝院五重塔振動測定調査報告—』(①修 13 の一環として実施)

目次

第 1 章 調査概要と測定対象建物
第 1 節 調査の背景と目的
第 2 節 最勝院五重塔について
第 2 章 測定方法と測定結果及び考察
第 1 節 測定方法
第 2 節 測定結果と考察
第 3 章 最勝院五重塔における風と地震についての検討
第 1 節 台風経路と被災文化財
第 2 節 最勝院五重塔の台風被害と特徴的な経年変化
第 3 節 最勝院五重塔の耐風解析
第 4 節 強震観測から見た最勝院五重塔の揺れ
第 5 節 最勝院五重塔の内陸直下型地震の危険度評価
第 4 章 まとめ



『文化財の防災計画に関する研究—最勝院五重塔振動測定調査報告—』

東文研 NEWS の発行 (③情 03 の一環として実施)

広報企画事業 (③情 03) の一環として実施した (69 頁参照)。

『東京文化財研究所概要』(③情 03 の一環として実施)

広報企画事業 (③情 03) の一環として実施した (69 頁参照)。